



鹿 骨 東 小 学 校



鹿骨東小学校公式ホームページ <http://edogawa.schoolweb.ne.jp/shishibonehigashi-e/>

防災・減災意識を高め、自ら命を守る行動を

校長 鈴木 衣里

実りの秋を迎える9月ですが、夏休み中には全国各地で大きな自然災害が相次いでいます。熊本地震や8月千葉豪雨、先日の都内の地震、石川・富山豪雨など、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。災害はいつ、どこで発生するか分かりません。夏休みが明け、子供たちの元気な姿が学校に戻ってきた今だからこそ、ご家庭と共に防災・減災への意識を改めて高めていきたいと考えております。

夏休み中に千葉豪雨災害の復旧ボランティアに参加した教員がいます。この教員は、東日本大震災の際もボランティアに参加した経験があり、当時はどこでどんなボランティアが必要か直接問い合わせなければならなかったのですが、今回は行政によるボランティア募集のアプリを活用し、すぐに参加することができたそうです。以下にその体験談を紹介します。

「家の中に流れ込んだ汚泥を、数名でスコップを使って掻き出し一輪車で運んだ。汚れた家具等を運び出し、災害ゴミとして分別した。大量の災害ごみが出て、回収処理が追いついていない状況だった。汚泥を撤去し清掃した後、消毒が必要。被災するところは紙一重。隣同士の家屋でも、土地や土台のちょっとした高低差で浸水の有無が全く違った。ハザードマップで浸水の危険がない場所でも被害に遭っている。高台だから大丈夫と思っていた場所でもちょっとした窪地が冠水し、動けなくなり放置された自動車があった。」

復旧の並々ならぬご苦労とボランティアの方々のご尽力に、頭が下がります。また、この体験談から感じたことが2つあります。

- ①家の周りの土地の高低差を知っておく必要がある。自動車に乗っていると感じないが、歩いたり自転車に乗ったりすると気付く。また、排水溝にゴミ等のつまりがないか日頃から注意する。
- ②近所の方や町会等、地域のつながりを大切にする。日頃から声を掛け合うことで、いざという時の援助要請の仕方等、近隣での情報共有がしやすくなる。

日頃から、「もしもの時」を想像した小さな行動の積み重ねが、いざという時の防災・減災につながることを学びました。子供たちにも、「もしも大雨が降ったら…」、「もしも地震が起こったら…」を想像した、日頃からの小さな備えの積み重ねが大切であることを伝えていきたいと思います。

そして「自分の命は自分で守る」ために、災害時には主体的な判断が不可欠です。毎月の避難訓練に加え、自ら危機を予測判断して行動する防災教育に取り組んでまいります。

いざという時に落ち着いて行動できるよう、この機会に豪雨対策や家庭の備蓄品、避難場所の確認、非常用持ち出し袋の点検、近隣との声の掛け合いなど、ご家庭でも防災について話し合っていただければ幸いです。

2学期も、学校とご家庭、地域が連携して、子供たちの安全を見守ってまいります。